

第2回トラフグ伊勢・三河湾系群研究機関会議 議事概要

開催日時 令和4年11月21日(月) 9:30-10:30

開催場所 web 会議 (Microsoft Teams)

議事次第

開会

議事

1. トラフグ伊勢・三河湾系群の新たな資源評価に関する説明と検討
2. 外部有識者講評
3. その他

概略

トラフグ伊勢・三河湾系群の資源管理目標として、近年の低迷した加入動態を適切に表現する 2009～2020 年の天然由来の加入量に対してあてはめられた対数正規分布に基づいて将来の加入を予測した、1B ルールに基づき F_{max} を F_{msy} の代替値とした場合における MSY 等管理基準値を提案した。併せて、同時に議論がなされてきたリッカー (RI) 型およびホッケア・スティック (HS) 型再生産関係に基づく MSY 等管理基準値についても、RI 型および HS 型の再生産関係式を共に選択できなかった理由とともに、簡易版をはじめとする各種資料に記載することで、これら資料の内容は承認された。

質疑概要

1. トラフグ伊勢・三河湾系群の新たな資源評価に関する説明と検討

(1) これまでの検討の概要および簡易版案の説明

県水試等参画機関：当県としては、現状では資源を適切に表現するモデルが選択できないという認識である。そんな中、資源評価のプロトコルに従うと 1B を選択することになる状況であることを記録に残していただきたい。

水産機構：水産庁から公表されている「TAC 魚種拡大に向けたスケジュール」に沿って、その時点の最善の資源評価結果を選ぶということである。意見については議事概要に記録し、回覧し確定したい。

県水試等参画機関：当県も他県と同意見である。資源量推定にも問題があり、RI はフィッティングは良いがスティーブネスなどに問題があり採用できない。一方で HS や 1B では漁獲損失があり、こういったものも担保できるようなシナリオなのかということは疑問視している。今後の課題として、強い密度効果が認められ RI が検討対象となった場合でも、RI では親魚量の低下リスクが存在するため、その時に安全な案として 1B が選択され

がちであるところ、RI を選択した上で β を変えることなどでの対応もお願いしたい。1B をやや推しということで結論づけられ、ルールということで承知はするが、当県としては 1B、RI、HS 同等であると考えている点は留意いただきたい。

水産機構：承知した。今後の管理の検討において、漁獲損失は重要なポイントと考えている。研究機関会議として漁獲損失を考慮した再生産関係の選択は行わなかったが、漁獲損失に関しての懸念が示されている点は記録に残したい。今後漁業者からこの意見が挙がった時に、対応していきたい。県からは 1B、RI、HS を並列に扱う意見があったことも、議事概要に記載する。

県水試等参画機関：1B 系は VPA の解析結果に基づいて計算しているため、1B を推すとしても、 F_{max} などの推定にも用いた数値にも不確実性があることは追記いただきたい。

水産機構：承知した。1B、1A 問わず、VPA 結果を用いていることについて、不確実性があるという点は記録したい。

県水試等参画機関：MSY の推定が時期尚早という点について、他県と同意見である。仮定するモデルから推定される MSY の値の推定幅は非常に広く、モデルによって推定される各種値が極端に異なることについては記録いただきたい。

水産機構：承知した。簡易版の RI と HS を記載するページの赤字フッターとしても、今後も資源評価の精度向上および MSY 等の再検討を行う点について、一般的なことではあるが、本系群ではあえて記載することとしている。

(2) 提案書案の説明

水産機構：提案書については会議での提案を示すものであるため、1A 系も並列で扱う意見や今後の漁獲損失への対応についての意見は議事概要に記載したい。F の不確実性については提案書に追記する。提案書と議事概要については、特段の異論がなければ、近日中に回覧し、1 週間程度で確定としたい。

2. 外部有識者講評

前回も述べたが、1B は RI と HS の中間的なものであり、これが採用されたと理解している。RI と HS で管理が大きく異なる中、中間的なところで妥協できたものと思う。

1B のルールについて、理解が進んでいない点は懸念すべきである。 β のデフォルトが 0.7 である点も認識し辛かった。この点、今後の説明の際には注意いただきたい。

研究機関会議資料は膨大であるが、急ぎで作成されたものと思うため、公表に向けては十分な確認と修文をお願いしたい。

以 上